

つながる食育

七飯町立七重小学校

栄養教諭 伊藤 綾子



〈はじめに〉

平成29年度、七重小学校は、文部科学省の「つながる食育推進事業」のモデル校として、学校での実践を家庭につなげること等を目指して事業を進め、様々な成果を得ることができました。

〈学校・家庭がつながる取組、教職員がつながり家庭へアプローチ〉

七重小学校では発達の段階に応じた食育授業を行っています。特につながる食育事業の中で、家庭との連携を強化した食に関する指導の在り方を研究するため、学級活動「朝ごはん」と学力・体力との関係を知ろう」を題材に、管内小学校の教職員、栄養教諭、推進委員等35名の参加のもと公開研究会として授業を行いました。授業では、学級担任が児童の願いや思いを引き出すことにより興味関心を持たせ、栄養教諭が専門性を生かして科学的な根拠を基に朝食の大切さを伝えるなどして、児童に学力、体力の向上と朝食との関係、そして具体的な朝食内容を考えさせ、バランスの良い朝食を食べて登校するために何ができるか自己目標を考えさせました。ワークシートからは、朝食内容の大切さへの気付き、自分の食事の具体的な改善策をもつことができたことなど見取ることができました。

授業のまとめでは、家庭とのつながりを持つため、冬休みに家族のために朝

食を作ることを提案しました。冬休み明けに提出されたワークシートは期待を上回るものでした。保護者からは、子どもが一生懸命に取り組んだ様子、子どもの成長を実感できたことへの感動、家庭の朝食内容を見直すきっかけになったといったコメントをいただきました。また、子どもたちからは食事を用意することの苦勞を理解できたことや家族への感謝の気持ちが生まれたことなど、感動や成長を感じられる取組となりました。

他にも、3年生が総合的な学習の時間に稲作体験学習を行いました。1年間を通してお米に関する知識や理解を深め、お米を大切に思える子どもが増え、給食のご飯の残量も減少傾向にあるなどの効果もありました。家庭でもたくさん話題になり、保護者アンケートでも高い評価を得ました。



また、養護教諭、担任と連携して、肥満傾向児への個別相談指導にも取り組みました。

給食委員会等、児童会活動を通じた取組で給食を楽しみにする児童が増え、食に対する意識が高まる等の効果もありました。

〈学校・地域がつながる取組、地域とつながり学校給食の充実を図る〉

子どもたちに地場産物の良さ等を理解させ、望ましい食生活を実践しようとする意識を持たせるため、29年度から「プレミアムなえだー（七飯産の日）」

の取組を開始しました。今年度は町費として地産地消推進費をつけてもらい、新たな地場産物として「王様しいたけ」「ななみつき」「山川特濃牛乳」などを使い、町内多くの協力者を得ることもできました。さらに、新しい給食センターの設備の良さを生かし、手作りの厚焼き卵やゼリー作り等に取り組み好評を得ています。

〈学校・家庭・地域がつながる取組、家庭における食生活の改善を図る〉

家庭での食生活改善は保護者の理解や協力が不可欠であることから、PTA保健委員会の保護者を巻き込み、PTA料理教室、給食試食会等を2回ずつ開催しました。

栄養教諭から、給食についてと、食育に関する講話をおこない、給食に対する理解を深められた等の高い評価を得ることができました。

七飯町では初めての親子料理教室も開催し、25名の参加者が親子で楽しく地場産物をふんだんに使った料理に取り組みました。アシスタントとして管内栄養教諭の協力を得られ、管内の他市町での開催も検討されるなどの効果もありました。参加者からは再度開催を期待する声が多く寄せられました。

さらに、静岡産業大学副学長の小澤治夫先生の講演「早寝・早起き・朝ごはんのすすめ」は、305名の参加があり、盛大な講演会となりました。インパクトのある、参加者の行動変容につながる講演会となりました。

〈取組による成果とまとめ〉

給食試食会で行った保護者対象のアンケート調査結果の推移として給食の味が「おいしい」や「ちょうど良い」と

答えた割合が54.1%から93.8%に上昇しました。子どもが給食を楽しみにしている」と答えた割合も、76.2%から96.4%に上昇と、学校給食の評価が向上傾向にあることがわかりました。

また、PTA料理教室の2回目（12月）に行った意識調査では、家庭で地場産物を購入する機会、手作りの料理を食べる機会、子どもと食べものの話をする機会、家族の食事を考える機会がいずれも増えていくことがわかりました。「プレミアムなえだー」の取組や試食会の開催は、学校給食への理解や関心を高め、料理教室は食に関する関心を高める一定の効果があらることが明らかとなりました。

〈おわりに〉

今年度の取組を通してあらためて感じたこと、それは、「人とのつながり」「自然の恵み」を感じ育むのが食であり、それこそが生活の豊かさにつながることで、モデル校の指定は今年度で終わりますが、この取組を継続し、深めていくことが大切で、それが子どもたちの変容につながるのだと考えています。5年後、10年後に、あれがきっかけだったねと振り返ることができるように、今後も校内、家庭、地域、行政など多くの方々とのつながりを大切に、「子どもたちのために」という揺るがない思いで取り組んでいきたいと考えています。

